

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成21年12月3日(2009.12.3)

【公開番号】特開2007-200290(P2007-200290A)

【公開日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【年通号数】公開・登録公報2007-030

【出願番号】特願2006-340954(P2006-340954)

【国際特許分類】

G 0 6 F 17/50 (2006.01)

H 0 1 L 29/00 (2006.01)

H 0 1 L 21/82 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/50 6 6 2 G

H 0 1 L 29/00

H 0 1 L 21/82 T

【手続補正書】

【提出日】平成21年10月21日(2009.10.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

コンピュータが、モデル式を構成するパラメータの数値を入力するステップと、
前記コンピュータが、前記パラメータの数値を前記モデル式に入力し計算値を算出する
ステップと、

前記コンピュータが、実デバイスの入出力応答を実測値とし、前記実測値と前記計算値
の間の一一致の度合いの評価を行うステップと、を有し、

前記実測値と前記計算値の一一致の度合いは、前記実測値の連結線と前記計算値の連結線
に挟まれた部分の面積に相当する数値で評価することを特徴とするパラメータ抽出方法。

【請求項2】

コンピュータが、モデル式を構成するパラメータの数値を入力するステップと、
前記コンピュータが、前記パラメータの数値を前記モデル式に入力し計算値を算出する
ステップと、

前記コンピュータが、実デバイスの入出力応答を実測値とし、前記実測値と前記計算値
の間の一一致の度合いの評価を行うステップと、を有し、

前記実測値と前記計算値の一一致の度合いは、実測値における複数個のデータでの隣接す
る2点と、前記実測値の2点に対応する前記計算値での2点に囲まれる面積に相当する数
値を見積もることで、前記実測値の連結線と前記計算値の連結線に挟まれた部分の面積に
相当する数値を求め、評価することを特徴とするパラメータ抽出方法。

【請求項3】

請求項1または2において、前記実測値は、入力物理量に対する出力物理量の応答を示
した2次元のグラフとして表記されるものであることを特徴とするパラメータ抽出方法。

【請求項4】

請求項1乃至3のいずれか一において、前記計算値は、前記モデル式を構成する前記パ
ラメータが具体的な数値として入力されることにより、前記実測値を表記した2次元のグ
ラフ上に表記されるものであることを特徴とするパラメータ抽出方法。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれかーにおいて、前記モデル式は、半導体素子のパラメータを有するモデル式であることを特徴とするパラメータ抽出方法。

【請求項 6】

請求項 5 における前記パラメータが前記モデル式または前記モデル式を表す文字と数字の組み合わせと共にネットリストに記述され、回路計算が行われることを特徴とする回路動作検証方法。

【請求項 7】

コンピュータに、

前記コンピュータが、モデル式を構成するパラメータの数値を入力するステップと、

前記コンピュータが、前記パラメータの数値を前記モデル式に入力し計算値を算出するステップと、

前記コンピュータが、実デバイスの入出力応答を実測値とし、前記実測値と前記計算値の間の一致の度合いの評価を行うステップと、を実行させるためのプログラムを記憶し、

前記実測値と前記計算値の一致の度合いは、前記実測値の連結線と前記計算値の連結線に挟まれた部分の面積に相当する数値で評価することを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【請求項 8】

コンピュータに、

前記コンピュータが、モデル式を構成するパラメータの数値を入力するステップと、

前記コンピュータが、前記パラメータの数値を前記モデル式に入力し計算値を算出するステップと、

前記コンピュータが、実デバイスの入出力応答を実測値とし、前記実測値と前記計算値の間の一致の度合いの評価を行うステップと、を実行させるためのプログラムを記憶し、

前記実測値と前記計算値の一致の度合いは、前記実測値における前記複数個のデータでの隣接する 2 点と、前記実測値の 2 点に対応する前記計算値での 2 点に囲まれる面積に相当する数値を見積もることで、前記実測値の連結線と前記計算値の連結線に挟まれた部分の面積に相当する数値を求め、評価することを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【請求項 9】

請求項 7 または 8 において、前記実測値は、入力物理量に対する出力物理量の応答を示した 2 次元のグラフとして表記されるものであることを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【請求項 10】

請求項 7 乃至 9 のいずれかーにおいて、前記計算値は、前記モデル式を構成する前記パラメータが具体的な数値として入力されることにより、前記実測値を表記した 2 次元のグラフ上に表記されるものであることを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【請求項 11】

請求項 7 乃至 10 のいずれかーにおいて、前記モデル式は、半導体素子のパラメータを有するモデル式であることを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。